

教育

— 相談 63 —

令和6年度事業報告

台東区立教育支援館

紀要「教育相談63集」発刊によせて

台東区立教育支援館 館長 増嶋 広曜

台東区教育委員会において令和元年10月に策定した「台東区学校教育ビジョン」では、4つの施策目標の一つに“多様なニーズを具現化する教育を展開する”ことを掲げ、施策の方向として「子供が豊かに学ぶ教育環境づくりの推進」、「様々な家庭の状況や子供の諸課題の支援」等とし、学校園や家庭の多様な実態に応じた取組を展開しています。

台東区立教育支援館では、教育相談を担当する臨床心理士等が相談者の悩みに寄り添い、子供たち一人一人に応じた適切かつきめ細かな支援・援助を提供することを念頭に置くとともに、全ての子供たちが学校園において円滑に学習・生活することや社会的自立につながることを目指して、様々な教育相談事業を展開しています。

精神科医、言語聴覚士等の専門的な人材を活用した「こころの相談室」、「未就学児のきこえとことばの相談」では、各学校園や家庭に対して、子供一人一人の実態に応じたより適切な支援方法や専門的な助言を得られる機会を提供しています。

また、様々な理由により長期欠席傾向にある児童・生徒に対しては、「あしたば学級」の生活指導相談員や臨床心理士が中心となって対応しています。生活指導相談員が学校訪問を通じて把握した対象児童・生徒の状況を基に、一人一人に適した支援方法を学校と連携して検討することで、学校復帰や社会的自立に向けた取組をより一層充実させることにつながっています。令和6年度からは、オンライン上の仮想空間（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）を活用し、個別最適な学びの充実にも努めてまいりました。仮想空間上のやり取りによってコミュニケーションに自信が付き、学校復帰につながった事例もございました。

さらに、「スクールソーシャルワーカー配置事業」においては、7名のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、子供の問題について、心理と福祉の両面からのサポートを強化し、問題解決に向けて関係機関等との連携を密にしながら適切かつ迅速な対応を学校園とともに行っております。

この度、令和6年度の教育相談事業をまとめた「教育相談63集」を作成いたしました。来所相談や電話相談件数の内訳や「こころの相談室」の相談状況、生活指導相談学級「あしたば学級」の活動状況等についても詳細に掲載しております。

来所相談の令和6年度新規申込み件数は272件でした。主訴の上位は、「落ち着きがない」が最多の53件、続いて「不登校（園）」が50件、「言語障害・遅れ」が49件となっております。相談件数自体は、前年度より8件減少しておりますが、より主訴が多様化・複雑化しております。

本紀要は、教育支援館の教育相談事業を広く関係の皆様にご理解いただくことを目的としております。本館で実施している様々な相談事業を今後も学校園や家庭においてご活用いただくことで、子供たちが安心して学校園生活を送ることができるようになりますことを、心から願っております。

目 次

令和6年度 事業報告

教 育 相 談

来所・電話相談・オンライン相談	．．．．．	2 ～ 10
連携訪問	．．．．．	11 ～ 12
学校教育相談講座	．．．．．	13 ～ 15
教育相談内部研修会	．．．．．	16
こころの相談室	．．．．．	17 ～ 20
未就学児のきこえとことばの相談	．．．．．	21 ～ 23

生活指導相談学級（あしたば学級）

年間活動報告	．．．．．	24 ～ 31
ふれあいパートナー派遣事業	．．．．．	32

教育相談

来所・電話・オンライン相談

令和6年度の来所・電話・オンライン相談の状況は、次のとおりである。

【来所相談について】

1. 全体の傾向

令和6年度の新規申込み件数は272件であった。＜表1＞＜図1＞

申込み件数が多かった順位を年齢別に見ると、小学生1～3年が104件（38%）、小学生4～6年が62件（23%）、4～6歳が58件（21%）、中学生が42件（15%）、高校生が4件（2%）、0～3歳が2件（1%）で、小学生が全体の61%を占めている。＜図2＞

令和5年度からの継続相談件数は177件で、令和6年度の新規申込み件数と合わせると、令和6年度の来所相談の総数は449件であった。来所相談件数が多かった順位を年齢別に見ると、小学生1～3年が133件（29%）、小学生4～6年が119件（26%）、中学生が88件（20%）、4～6歳が86件（19%）、高校生が21件（5%）、0～3歳が2件（1%）となっており、小学生が全体の56%を占めている。

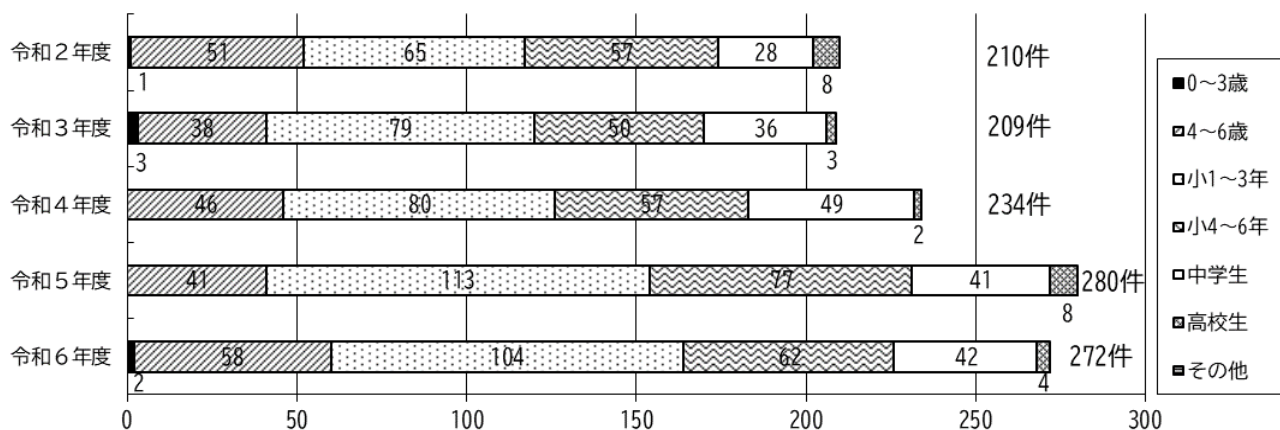
＜図3＞

＜表1＞ 令和6年度 来所相談申込件数（月別・年齢別・主訴別・申込方法別）

令和6年度 （月別）	相談対象								主訴						申込方法			
	幼児		小学生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	1	2	3	4	5	6	計	A	B	C
	0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					性 格 ・ 行 動	知 能 ・ 学 業	精 神 ・ 身 体	進 路 ・ 適 性	し つ け ・ 育 て 方	そ の 他		直 接 申 込	学 校 ・ 園 経 由	他 機 関 経 由
繰越*		28	29	57	46	17		177	121	20	33		3		177	73	83	21
4月		5	6	10	2	2		25	16	3	5		1		25	12	5	8
5月		8	9	4	4			25	17	1	6		1		25	11	11	3
6月		3	12	5	3			23	18	1	2	1		1	23	13	9	1
7月		7	14	9	7			37	21	10	6				37	14	18	5
8月		2	1	3	1			7	5	1	1				7	3	3	1
9月		7	1	1	6			15	8		7				15	7	5	3
10月		7	8	7	1	1		24	10	5	8			1	24	9	12	3
11月	1	3	11	7	1	1		24	17	3	3	1			24	8	14	2
12月		1	16	9	6			32	21	8	1	1		1	32	7	24	1
1月		5	6	5	4			20	12	5	3				20	10	8	2
2月		7	12		5			24	12	5	7				24	8	14	2
3月	1	3	8	2	2			16	7	6	3				16	8	8	
R6合計	2	58	104	62	42	4	0	272	164	48	52	3	2	3	272	110	131	31
総計	2	86	133	119	88	21	0	449	285	68	85	3	5	3	449	183	214	52

*繰越：令和5年度からの継続相談件数

<図1> 過去5年間の来所相談新規申込件数の推移（年齢別）



2. 主訴について

令和6年度の来所相談申込み件数の主訴別順位は、第1位が「落ち着きがない」53件、第2位が「不登校（園）」50件、第3位が「言語障害・遅れ」49件、第4位が「反抗・乱暴・わがまま」33件となっている。＜表2＞

主訴別順位の申込み件数を年齢別で見ると、第1位の「落ち着きがない」の内訳は、4～6歳が1件、小学生1～3年が29件、小学生4～6年が15件、中学生が8件であった。第2位の「不登校（園）」の内訳は、4～6歳が4件、小学生1～3年が14件、小学生4～6年が10件、中学生が18件、高校生が4件であった。第3位の「言語障害・遅れ」の内訳は、0～3歳が2件、4～6歳が46件、小学生1～3年が1件であった。第4位の「反抗・乱暴・わがまま」の内訳は、4～6歳が3件、小学生1～3年が15件、小学生4～6年が11件、中学生が4件であった。＜表3＞

なお、「言語障害・遅れ」を主訴とした就学前の幼児については、当教育相談内において言語聴覚士が月12回の枠で相談に応じて支援している。言語聴覚士が扱う主な内容は、「発音不明瞭」、「吃音」、「言語発達遅滞」などである。小学生の対応については、黒門小学校内『きこえとことばの教室』を紹介している。

令和5年度からの継続相談と令和6年度の新規申込みの相談を合わせた令和6年度の来所相談主訴別件数の順位は、次のとおりである。第1位が「不登校（園）」100件、第2位が「落ち着きがない」83件、第3位が「言語障害・遅れ」76件であった。＜表4＞

<表2> 来所相談 年度別・主訴別の上位件数

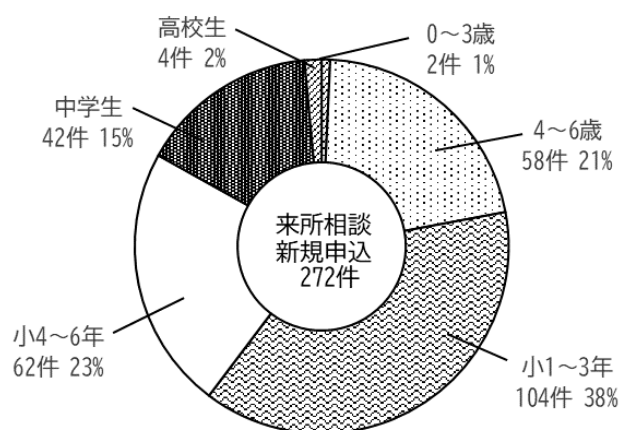
単位：件

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
1	学業不振 言語障害・遅れ	各 45	不登校（園） 学業不振	各 40	不登校（園）	54	落ち着きがない	64	落ち着きがない	53
2	不登校（園）	34	言語障害・遅れ	33	落ち着きがない	40	不登校（園）	52	不登校（園）	50
3	落ち着きがない	21	落ち着きがない	28	言語障害・遅れ	37	学業不振	40	言語障害・遅れ	49
4	反抗・乱暴 ・わがまま	16	反抗・乱暴 ・わがまま	15	反抗・乱暴 ・わがまま	27	言語障害・遅れ	34	反抗・乱暴 ・わがまま	33

<表3> 令和6年度 来所相談主訴別件数（令和6年度新規申込分）

年 齢・学 年 主 訴・問 題			幼 児		小 学 生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計
			0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年				
1 性 格 ・ 行 動	1	内気・消極・無気力		1	8	4	4			17
	2	反抗・乱暴・わがまま		3	15	11	4			33
	3	不登校（園）		4	14	10	18	4		50
	4	落ち着きがない		1	29	15	8			53
	5	友人関係		1	2	3	2			8
	6	盗み				2				2
	7	緘黙								0
	8	非行								0
	9	性について								0
	10	その他					1			1
2 知 能 ・ 学 業	1	精神発達遅滞			2	1				3
	2	学業不振			17	11	3			31
	3	学習障害（LD）			9	2	1			12
	4	学習方法・態度			1					1
	5	その他		1						1
3 精 神 ・ 身 体	1	神経症的				1				1
	2	自閉傾向				1				1
	3	夜尿・遺尿・遺糞								0
	4	チック症・爪かみ								0
	5	自慰			1					1
	6	言語障害・遅れ	2	46	1					49
	7	身体症状								0
	8	その他								0
4 進 路	1	学校選択		1						1
	2	転校								0
	3	進路相談				1	1			2
5		しつけ・育て方			2					2
6 そ の 他	1	学校・教師との問題			2					2
	2	相談者自身の問題			1					1
	3	その他								0
計			2	58	104	62	42	4	0	272

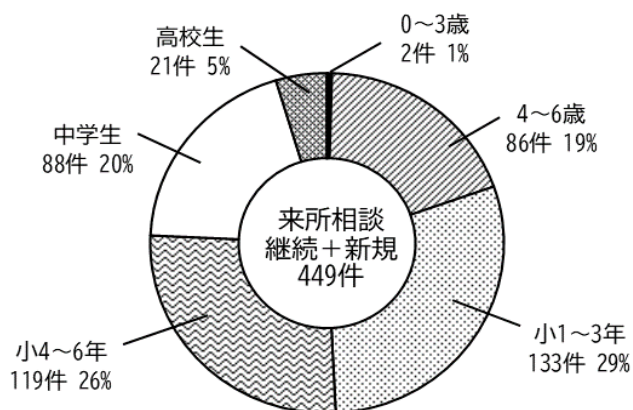
<図2> 令和6年度 来所相談新規申込件数（年齢別）



<表4> 令和6年度 来所相談主訴別件数（令和5年度からの継続分＋令和6年度新規申込分）

年 齢・学 年 主 訴・問 題			幼 児		小 学 生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	
			0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					
1 性 格 ・ 行 動	1	内気・消極・無気力		1	9	7	7	1		25	285
	2	反抗・乱暴・わがまま		3	22	18	10			53	
	3	不登校（園）		4	21	26	36	13		100	
	4	落ち着きがない		1	35	29	16	2		83	
	5	友人関係		1	4	6	3	1		15	
	6	盗み				2				2	
	7	緘黙				1	1	1		3	
	8	非行								0	
	9	性について								0	
	10	その他				2	2			4	
2 知 能 ・ 学 業	1	精神発達遅滞			4	1	1			6	68
	2	学業不振			20	15	8			43	
	3	学習障害（LD）			9	5	1	1		16	
	4	学習方法・態度			2					2	
	5	その他		1						1	
3 精 神 ・ 身 体	1	神経症的				3		1		4	85
	2	自閉傾向				2		1		3	
	3	夜尿・遺尿・遺糞								0	
	4	チック症・爪かみ								0	
	5	自慰			1					1	
	6	言語障害・遅れ	2	72	1		1			76	
	7	身体症状				1				1	
	8	その他								0	
4 進 路	1	学校選択		1						1	3
	2	転校								0	
	3	進路相談				1	1			2	
5		しつけ・育て方		2	2		1			5	5
6 そ の 他	1	学校・教師との問題			2					2	3
	2	相談者自身の問題			1					1	
	3	その他								0	
計			2	86	133	119	88	21	0	449	449

<図3> 令和6年度 来所相談年齢別件数（継続＋新規）



3. 申込方法について

来所相談は保護者からの申込みを原則とし、保護者の申込みまでの経緯を次のように分類している。

A：保護者からの自発的な判断による直接申込み

B：学校（園）からの紹介または勧めによる申込み

C：他機関からの紹介による申込み

令和6年度の新規申込み方法においては、Aが110件、Bが131件、Cが31件であり、Bの学校（園）からの紹介または勧めによる申込みが最も多い状況となっている。＜表1＞

4. 来所相談（継続面接）の状況

来所相談では、主訴を解決するために保護者と子供に対する面接を行っている。さらに各事例について必要と思われる関係機関とは、主に電話での連携を行っている。

令和6年度の来所相談延べ相談回数は2404回であった。主訴別内訳を見ると、「性格・行動」の1793回が最も多く、「精神・身体」が404回、「知能・学業」が188回であった。「性格・行動」、「精神・身体」、「知能・学業」の延べ相談回数は前年度よりやや増加している。＜表5＞

年齢別内訳を見ると、4～6歳が285回、小学生1～3年が639回、小学生4～6年が849回、中学生が510回、高校生が121回となっていて、令和6年度は小学生4～6年の延べ相談回数が最も多かった。4～6歳、小学生4～6年、中学生、高校生の延べ相談回数が前年度とほぼ同数となっている。

＜表6＞＜図4＞

令和6年度の親と子供、学校（園）別に延べ相談回数を見ると、子供の延べ相談回数が1019回、親の延べ相談回数が1376回（来所1367回、電話9回）、学校の延べ相談回数が9回（電話9回）であった。

＜表5＞

年齢別に延べ相談回数を多い順に見ると、第1位が小学生4～6年の849回（親489回、子供352回、学校8回）、第2位が小学生1～3年の639回（親378回、子供260回、学校1回）、第3位が中学生の510回（親301回、子供209回）、第4位が4～6歳の285回（親148回、子供137回）、第5位が高校生の121回（親60回、子供61回）であった。＜図5＞

＜表5＞ 令和6年度 来所相談延べ相談回数（主訴別内訳）

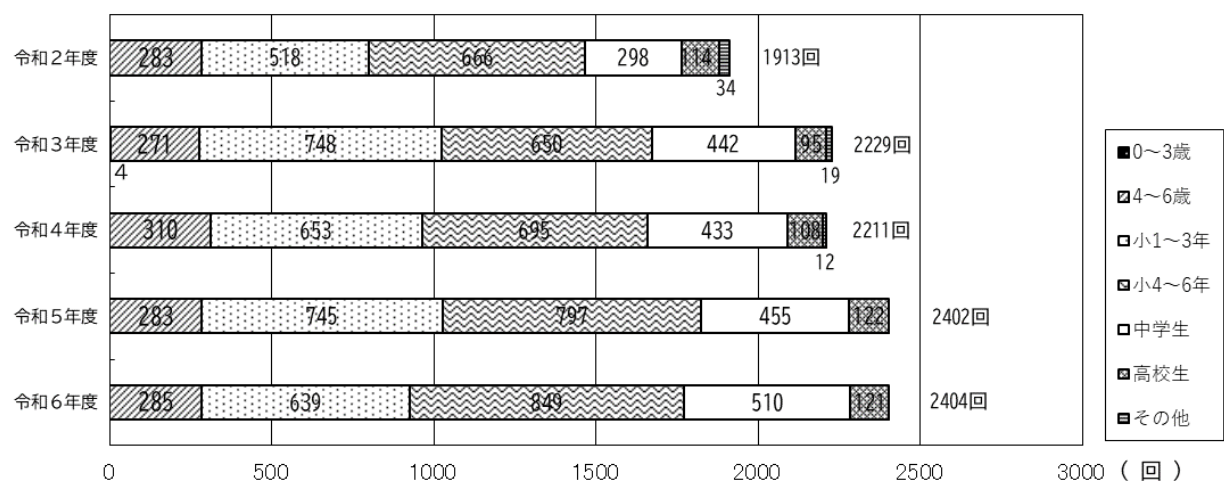
*来所相談のケースについて、来所、電話、学校訪問などの方法で相談に応じた回数の合計

	親		子 供		学 校		総 計
	来 所	電 話	来 所	電 話	訪 問	電 話	
1 性 格 ・ 行 動	1027	9	751			6	1793
2 知 能 ・ 学 業	114		72			2	188
3 精 神 ・ 身 体	208		195			1	404
4 進 路 ・ 適 性	3						3
5 しつけ・育て方	4						4
6 そ の 他	11		1				12
総 計	1367	9	1019	0	0	9	2404

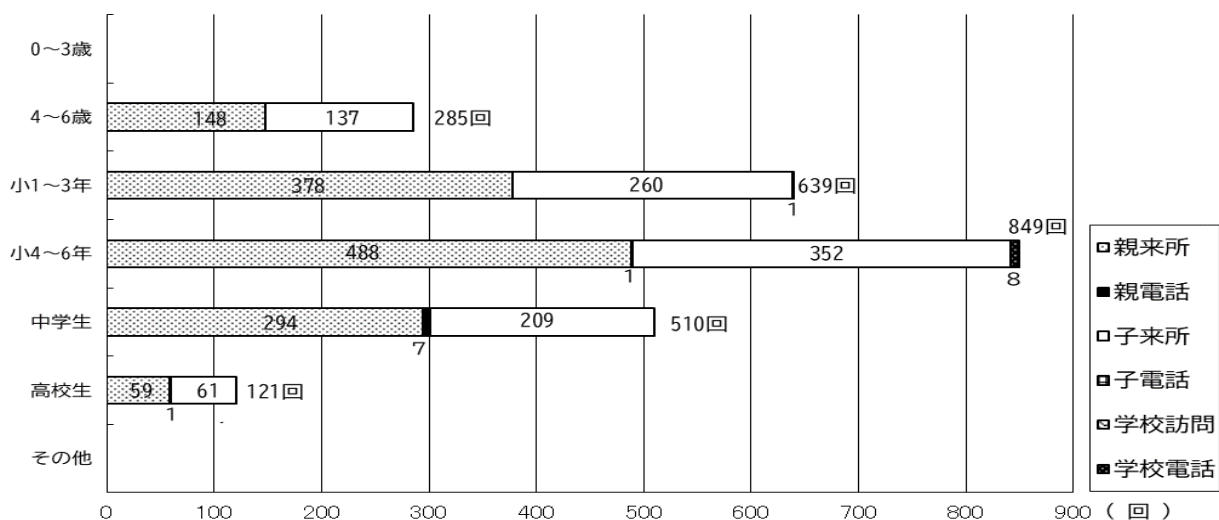
<表6> 令和6年度 来所相談延べ相談回数（年齢別内訳）

	親		子 供		学 校		総 計
	来 所	電 話	来 所	電 話	訪 問	電 話	
0 ～ 3 歳							0
4 ～ 6 歳	148		137				285
小学生1～3年	378		260			1	639
小学生4～6年	488	1	352			8	849
中 学 生	294	7	209				510
高 校 生	59	1	61				121
そ の 他							0
総 計	1367	9	1019	0	0	9	2404

<図4> 過去5年間の来所相談延べ相談回数の推移（年齢別）



<図5> 令和6年度 来所相談延べ相談回数（年齢別）



【電話相談・オンライン相談等について】

1. 令和6年度の電話相談・オンライン相談等の状況

電話相談・オンライン相談は1回限りの相談の場合が多いが、電話相談においては数回継続して相談する場合もある。また、相談員が相談内容に応じて、来所相談を勧めたり、他機関を紹介したりしている。

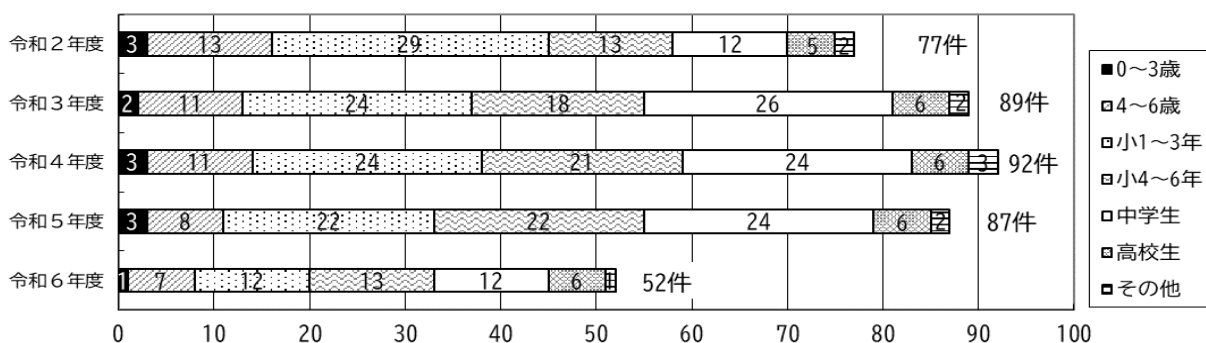
令和6年度の電話相談件数は52件、オンライン相談件数は0件であった。対応としては、助言が35件、紹介が11件、来所移行が6件である。＜表1＞＜表2＞

電話相談における年齢別に相談件数の多い順に見ると、小学生4～6年が13件（25%）、小学生1～3年、中学生が各12件（各23%）、4～6歳が7件（13%）、高校生が6件（12%）、0～3歳、その他が1件（各2%）となっている。＜図1＞＜図2＞

＜表1＞ 令和6年度 電話相談・オンライン相談件数（月別・年齢別・主訴別・対応方法別）

令和6年度 （月別）	相 談 対 象								主 訴							対 応 方 法			
	幼 児		小学生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	1	2	3	4	5	6	計	助 言	紹 介	来 所 移 行	計
	0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					性 格 ・ 行 動	知 能 ・ 学 業	精 神 ・ 身 体	進 路 ・ 適 性	し つ け ・ 育 て 方	そ の 他					
4月			1	2	2			5	2		2			1	5	3	2		5
5月		1			1			2	1					1	2	1	1		2
6月		2	3					5	2	1			1	1	5	3	1	1	5
7月			2	1	2	1		6	4	1				1	6	2	2	2	6
8月	1		1	3	1			6	5		1				6	4	1	1	6
9月		2		1	1		1	5	4					1	5	3	1	1	5
10月				3	1	2		6	5	1					6	5	1		6
11月			1	2	1	2		6	4					2	6	4	2		6
12月		1			2			3	1				2		3	2		1	3
1月		1						1	1						1	1			1
2月				1		1		2	1					1	2	2			2
3月			4		1			5	3	1				1	5	5			5
総計	1	7	12	13	12	6	1	52	33	4	3	0	3	9	52	35	11	6	52

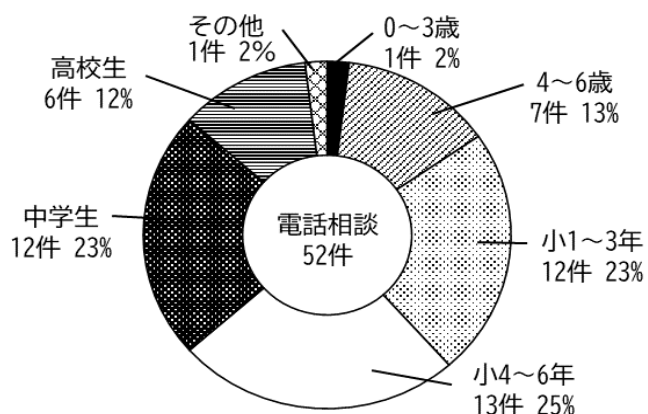
＜図1＞ 過去5年間の電話相談件数の推移（年齢別）



<表2> 令和6年度 電話相談・オンライン相談主訴別・年齢別件数

年 齢 ・ 学 年 主 訴 ・ 問 題			幼 児		小 学 生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	
			0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					
1 性 格 ・ 行 動	1	内 気 ・ 消 極 ・ 無 気 力						1		1	33
	2	反 抗 ・ 乱 暴 ・ わ が ま ま		2	4	2				8	
	3	不 登 校 (園)		1	1	6	4	1		13	
	4	落 ち 着 き が な い	1			1	3			5	
	5	友 人 関 係			1	1		2		4	
	6	盗 み								0	
	7	緘 黙								0	
	8	非 行								0	
	9	性 に つ い て								0	
	10	そ の 他			1			1		2	
2 知 能 ・ 学 業	1	精 神 発 達 遅 滞								0	4
	2	学 業 不 振			2			1		3	
	3	学 習 障 害 (LD)					1			1	
	4	学 習 方 法 ・ 態 度								0	
	5	そ の 他								0	
3 精 神 ・ 身 体	1	神 経 症 的								0	3
	2	自 閉 傾 向								0	
	3	夜 尿 ・ 遺 尿 ・ 遺 糞								0	
	4	チ ッ ク 症 ・ 爪 か み								0	
	5	自 慰								0	
	6	言 語 障 害 ・ 遅 れ			1					1	
	7	身 体 症 状					1			1	
	8	そ の 他				1				1	
4 進 路	1	学 校 選 択								0	0
	2	転 校								0	
	3	進 路 相 談								0	
5		し つ け ・ 育 て 方		2			1			3	3
6 そ の 他	1	学 校 ・ 教 師 と の 問 題		2	2	1	2			7	9
	2	相 談 者 自 身 の 問 題							1	1	
	3	そ の 他				1				1	
計			1	7	12	13	12	6	1	52	52

<図2> 令和6年度 電話相談件数（年齢別）



2. 電話相談での主訴について

令和6年度の電話相談における主訴別件数は、多いものから「不登校（園）」13件、「反抗・乱暴・わがまま」8件、「学校・教師との問題」7件、「落ち着きがない」5件であった。電話相談での主訴は多岐にわたっているが、令和2年度からは「不登校（園）」の相談が最も多く、令和3年度から「学校・教師との問題」が上位に入っている。＜表2＞＜表3＞

＜表3＞ 電話相談 年度別・主訴別の上位件数

単位：件

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
1	不登校（園）	11	不登校（園）	22	不登校（園）	18	不登校（園）	21	不登校（園）	13
2	しつけ・育て方	9	反抗・乱暴・わがまま 学校・教師との問題	各 9	学校・教師との 問題	14	学校・教師との 問題	11	反抗・乱暴 ・わがまま	8
3	言語障害・遅れ	8	落ち着きがない しつけ・育て方	各 8	落ち着きがない	8	友人関係	9	学校・教師との 問題	7
4	落ち着きがない 反抗・乱暴・わがまま	各 7	友人関係	7	反抗・乱暴 ・わがまま	7	落ち着きがない	7	落ち着きがない	5

3. 1人1台端末を活用した教育相談受付について

令和6年度の1人1台端末からの相談申込み件数は、小学生が12件であった。主訴は多いものから、「友達のこと」5件、「いじめのこと」5件、その他2件であり、うち1件は、電話相談につながった。

連 携 訪 問

令和6年度も各学校・園への「教育相談連携訪問」を実施した。小学校と中学校に関しては原則として全校を訪問し、幼稚園、保育園、こども園に関しては要請に応じて訪問している。小学校、中学校においてはスクールカウンセラーとの情報交換を主とし、幼稚園、保育園、こども園においては幼児の生活の様子を観察し助言を行っている。学校や園で気になる子供、また当教育相談に来所している子供について、教育相談員がスクールカウンセラーや先生方と直接話し合える機会として、今後もさらに充実させていきたいと考える。

1. 年度別訪問校・園数について

令和6年度の訪問学校・園数は29校園、延べ訪問回数は30回である。

<表1> 年度別訪問校・園数

回 数 校 種		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		訪 問	延 べ	訪 問	延 べ	訪 問	延 べ	訪 問	延 べ	訪 問	延 べ
		校園数	回 数	校園数	回 数	校園数	回 数	校園数	回 数	校園数	回 数
幼 稚 園	区 立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	私 立	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0
保 育 園	区 立	0	0	1	1	1	1	1	1	2	3
	私 立	7	7	2	2	1	1	6	6	1	1
こ ども 園		1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
小 学 校		19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
中 学 校		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
合 計		35	35	30	30	29	29	35	35	29	30

2. 訪問の内容

訪問内容は<表2>のとおりである。小学校、中学校の訪問では、スクールカウンセラーとの情報交換を中心に実施している。校長、副校長、養護教諭等が話し合いに参加した学校もある。

幼稚園、保育園、こども園の訪問では、要請に応じて気になる園児を観察し、園長や担任等とその後の対応などについて話し合った。

連携訪問で話し合われた子供たちの主な状況としては、「不登校」、「集団にうまく適応できない」、「発達障害傾向（多動である、言葉の遅れがある、感情のコントロールが苦手であるなど）が感じられる」、「友達と関わらず孤立している」、「親子関係が不安定なため学校で情緒的に不安定である」などであった。

<表2> 学校・園 訪問一覧（SC：スクールカウンセラー、SSW：スクールソーシャルワーカー）

月 日	学 校 ・ 園 名	訪問者数	校 ・ 園 内 参 加 者	主 な 内 容
5月10日	田 原 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
29日	松 葉 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
6月7日	千 束 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
11日	柏 葉 中 学 校	1	SC、SSW	情 報 交 換
12日	玉 姫 保 育 園	1	園長、担任	園児の観察と助言
17日	黒 門 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
17日	平 成 小 学 校	1	SC、SSW	情 報 交 換
18日	チェリッシュおひさま保育園	1	園長、担任	園児の観察と助言
21日	蔵 前 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
26日	台 東 育 英 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
7月1日	富 士 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
2日	駒 形 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
3日	た い と う こ ど も 園	1	主任、担任	園児の観察と助言
3日	金 竜 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
4日	根 岸 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
5日	忍 岡 中 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
8日	浅 草 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
11日	東 浅 草 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
19日	浅 草 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
9月9日	大 正 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
10日	御 徒 町 台 東 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
24日	谷 中 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
24日	石 浜 小 学 校	1	コーディネーター、SC	情 報 交 換
25日	桜 橋 中 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
10月7日	上 野 中 学 校	1	SC	情 報 交 換
11日	玉 姫 保 育 園	1	園長、担任	園児の観察と助言
11月6日	金 曽 木 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
14日	東 泉 小 学 校	1	SC	情 報 交 換
15日	上 野 小 学 校	1	養護教諭、SC	情 報 交 換
28日	忍 岡 小 学 校	1	SC	情 報 交 換

学 校 教 育 相 談 講 座

1. 令和6年度に開催した学校教育相談講座の日程、タイトル、講師名

回	月 日	タ イ ト ル	講 師
1	7月23日 (火)	学校で生かすブリーフセラピー ～不登校、保護者支援のヒントとして～	目白大学人間学部 非常勤講師 渡 辺 友 香 先生
2	7月24日 (水)	子供のこころの問題と家族 ～家族支援の視点から～	放送大学教養学部 教授 村 松 健 司 先生
3	7月25日 (木)	学校現場で生かせる認知行動療法 ～不登校支援を中心に～	武蔵野大学人間科学部 准教授 野 中 俊 介 先生
4	7月26日 (金)	発達に偏りがある子の支援と手立て	明星大学教育学部 教授 森 下 由 規 子 先生
5	7月30日 (火)	感情コントロールが苦手な 子供たちの学級適応に向けて ～アンガーマネジメントを通して～	早稲田大学教育学部 助手 藤 田 真 理 子 先生
6	7月31日 (水)	学校現場で生かせる応用行動分析	教育ファシリテーション研究所 三田地 真 実 先生

2. 各講座の内容

(1) 学校で生かすブリーフセラピー ～不登校、保護者支援のヒントとして～

目白大学人間学部 非常勤講師 渡辺 友香 先生

解決志向ブリーフセラピーの基本的な考え方や、日々の指導や支援に役立つ具体的な技法を学び、不登校などの課題を抱える子供たちへの関わりや、保護者との関係づくりなど、実践に役立つ視点や具体的スキルを身に付ける。

(2) 子供のこころの問題と家族 ～家族支援の視点から～

放送大学教養学部 教授 村松 健司 先生

不登校やいじめの問題、対人トラブルの背景として、家庭のサポートをうまく得られない子供たちが多くみられる。このような子供たちや問題を抱える家族をどう理解・支援していくかを考え、家族をサポートするための視点や対応方法などについて学ぶ。

(3) 学校現場で生かせる認知行動療法 ～不登校支援を中心に～

武蔵野大学人間科学部 准教授 野中 俊介 先生

不登校の理解と援助について、架空事例を題材に、認知行動療法的な視点を用いたアセスメントや介入の方法を具体的に検討しながら、認知行動療法の基本的な考え方や、様々な問題行動に対する視点を学ぶ。

(4) 発達に偏りがある子の支援と手立て

明星大学教育学部 教授 森下 由規子 先生

発達の特性だけでなく、アタッチメントの課題や特異な才能をもつ子など、多様な子供達の個々のニーズに合った学びを保障するための基本的な考え方や、支援者が身に付けておきたいこと、継続的な支援をするために必要な視点を学ぶ。

(5) 感情コントロールが苦手な子供たちの学級適応に向けて

～アンガーマネジメントを通して～

早稲田大学教育学部 助手 藤田 真理子 先生

感情コントロールの難しい子供の心理状態や背景を考えるとともに、発達特性やアンガーマネジメントの視点も踏まえ、望ましい対応を考える。具体的な介入方法について、グループワークを通して体験的に学ぶ。

(6) 学校現場で生かせる応用行動分析

教育ファシリテーション研究所 三田地 真実 先生

応用行動分析の基本的な考え方を学ぶ。集団生活の中で問題行動を起こしやすい子供について、問題行動の機能に着目し、事例やワークを通して体験的に理解することで、現場で生かせる実践的なスキルを身に付ける。

3. 令和6年度の参加の状況

令和6年度の受講人数は173名（幼稚園17名、保育園17名、こども園2名、私立幼稚園・保育園8名、小学校62名、中学校21名、関係機関13名、スクールカウンセラー33名）で、各講座の延べ受講人数は235名であった。各講座の受講者の内訳は以下の表のとおりである。

校 種 別 (受講人数)	回	1	2	3	4	5	6	延べ受講 人 数
幼 稚 園 (17)		0	4	0	6	8	0	18
保 育 園 (17)		0	5	0	6	7	1	19
こ ど も 園 (2)		0	0	0	1	1	0	2
私立幼稚園・保育園 (8)		0	0	0	5	2	2	9
小 学 校 (62)		7	11	16	29	14	21	98
中 学 校 (21)		5	7	5	4	4	10	35
関 係 機 関 (13)		3	3	0	3	3	2	14
スクールカウンセラー (33)		11	8	10	1	2	8	40
全 体 (173)		26	38	31	55	41	44	235

令和6年度は、参加人数や講義形式についての制限を緩和した上での開催であった。令和5年度（受講人数171名、延べ受講人数225名）に比べて、受講人数は2名増加し、延べ受講人数は10名増加した。

特に、小学校、中学校においては、複数回参加する受講者が多く、教育相談に対する関心の高さがうかがえた。

教育相談内部研修会

令和6年度の内部研修会は、主として教育相談員7名を対象として行った。

この研修会は、教育相談員がより高度の理論や技術を習得して、来所相談者への相談にあたることを目的としており、講義を含む専門研修会とスーパービジョン（日常行っている心理療法の技術向上を図るための専門家の指導）で構成した。

【 専門研修会 】

月 日	時 間	内 容	講 師
5月16日（木）	13:30～ 16:00	アタッチメントとトラウマの講義	総合母子保健センター 愛育クリニック 医師 小 平 雅 基 先生
5月27日（月）	9:30～ 12:00	アートセラピーの講義と体験	一般社団法人 日本クリエイティブ ・アーツセラピー・センター 代表 関 則 雄 先生

【 スーパービジョン 】

月 日	時 間	内 容	講 師
7月24日（水）	9:30～ 12:00	不登校の小学生の事例	放送大学 教養学部 教授 村 松 健 司 先生
8月21日（水）	15:00～ 17:30	不登校の小学生の事例	ファミリーメンタルクリニック まつたに 院長 松 谷 克 彦 先生
9月18日（水）	9:30～ 12:00	WISC-Vを実施した事例 （検査結果からの見立て）	明星大学 心理学部 教授 小 貫 悟 先生
10月30日（水）	9:30～ 12:00	不登校の小学生の事例	東京都立大学 特任教授 永 井 徹 先生
1月20日（月）	9:30～ 12:00	不登校の中学生の事例	壱里山カウンセリングオフィス 代表 三 浦 和 夫 先生
2月17日（月）	9:30～ 12:00	WISC-Vを実施した事例 （検査結果からの見立て）	明星大学 教育学部 教授 森下 由規子 先生

こころの相談室

「こころの相談室」は、子供のこころの問題に関する悩み、発達や行動に対する心配事などに、精神科医が医療的な助言を行う事業である。（平成13年5月開始）

令和6年度は、精神科医2名が毎月4回、各3時間、教育支援館に来館し、分担して来所相談・電話相談・医師の訪問等を実施した。区内に在住または在学（園）している0歳から18歳の子供のことにについて、保護者、教師、本人などが相談することができる。来所での相談とともに電話での相談にも応じている。継続的な相談、治療や診断が必要な場合には、医療機関を紹介することもある。

また、医師が申込みのあった学校・園を訪問し、事例カードを基に子供の様子を観察して専門的な視野から所見を述べたり、具体的な対応について助言したりしている。

1. 来所・電話相談統計

令和6年度「こころの相談室」の相談件数は、来所相談11件、電話相談1件、計12件であった。

主訴別の順位で見ると、「不登校（園）」5件、「言語障害・遅れ」「落ち着きがない」各2件、「内気・消極・無気力」、「性について」「自閉傾向」が各1件である。

主訴別・年齢別内訳では、「不登校（園）」は小学生1～3年が1件、中学生と高校生が各2件、「言語障害・遅れ」は小学生1～3年が2件、「落ち着きがない」は小学生1～3年と小学生4～6年が各1件、「内気・消極・無気力」と「性について」は高校生が各1件、「自閉傾向」は幼児4～6歳が1件であった。＜表1＞

全体の年齢別相談件数で多かったのは、小学生1～3年と高校生が各4件、中学生が2件、幼児4～6歳と小学生4～6年が各1件であった。＜表1＞

申込み者別では、母親が11件、父親が1件であった。また、申込み後のキャンセルが2件あった。

2. 医師の訪問

令和6年度は、幼稚園1園、保育園7園、小学校11校、中学校2校、計21校園を訪問し、延べ訪問回数は37回である。

医師が実際に学校・園を訪問して助言した数は95事例である。「医師の訪問」実施数及び内容については、表のとおりである。＜表2＞＜表3＞

各学校・園における訪問依頼の中には、観察、事例を通して、担任や養護教諭への助言だけでなく、特別支援教育コーディネーターを中心として関係の教職員で情報を共有しようとする生活指導委員会等で助言する場合もある。

子供の理解を深めたり、学校・園における様々な課題に対する指導や支援に役立てたりできるよう、医師が事例への所見を述べ、具体的な手立てについて助言をしている。また、家庭との連携を図ることができるよう保護者への対応についても助言を行うことがある。

<表1> 令和6年度 こころの相談室利用者別・相談内容別件数

主 訴 ・ 問 題 年 齢 ・ 学 年			幼 児		小 学 生		中 学 生	高 校 生	そ の 他	計	
			0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年					
1 性 格 ・ 行 動	1	内 気 ・ 消 極 ・ 無 気 力						1		1	9
	2	反 抗 ・ 乱 暴 ・ わ が ま ま								0	
	3	不 登 校 （ 園 ）			1		2	2		5	
	4	落 ち 着 き が な い			1	1				2	
	5	友 人 関 係								0	
	6	盗								0	
	7	緘								0	
	8	非								0	
	9	性 に つ い て						1		1	
	10	そ の 他								0	
2 知 能 ・ 学 業	1	精 神 発 達 遅 滞								0	0
	2	学 業 不 振								0	
	3	学 習 障 害 （ L D ）								0	
	4	学 習 方 法 ・ 態 度								0	
	5	そ の 他								0	
3 精 神 ・ 身 体	1	神 経 症 的								0	3
	2	自 閉 傾 向		1						1	
	3	夜 尿 ・ 遺 尿 ・ 遺 糞								0	
	4	チ ッ ク 症 ・ 爪 か み								0	
	5	自								0	
	6	言 語 障 害 ・ 遅 れ			2					2	
	7	身 体 症 状								0	
	8	そ の 他								0	
4 進 路	1	学 校 選 択								0	0
	2	転								0	
	3	進 路 相 談								0	
5		し つ け ・ 育 て 方								0	0
6 そ の 他	1	学 校 ・ 教 師 と の 問 題								0	0
	2	相 談 者 自 身 の 問 題								0	
	3	そ の 他								0	
計			0	1	4	1	2	4	0	12	12

<表2> こころの相談室 「医師の訪問」 実施数

学 校 ・ 園	訪問校・園数	延べ訪問回数	参観・助言事例数
幼 稚 園	1	1	2
保 育 園	7	12	22
こ ど も 園	0	0	0
小 学 校	11	22	67
中 学 校	2	2	4
計	21	37	95

<表3> こころの相談室 「医師の訪問」 実施一覧

月 日	曜	訪問校・園	時 間	参 加 者	内 容
4月12日	金	金 竜 小 学 校	13:30~15:30	養護教諭、担任1名	2事例について助言
5月14日	火	千 束 小 学 校	13:30~15:00	養護教諭	3事例について助言
		三 筋 保 育 園	15:10~16:00	副園長、担任1名	3事例について助言
21日	火	浅草橋保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	1事例について助言
6月4日	火	東浅草小学校	13:30~15:30	校長、副校長、養護教諭、担任3名	5事例について助言
11日	火	田 原 小 学 校	13:30~15:30	養護教諭、担任2名、他1名	2事例について助言
14日	金	松 葉 小 学 校	14:20~16:00	養護教諭、担任1名	2事例について助言
18日	火	富 士 小 学 校	13:30~15:30	校長、担任3名、他1名	4事例について助言
7月2日	火	平 成 小 学 校	13:30~15:30	主幹、養護教諭、担任3名、SC、他2名	4事例について助言
9日	火	忍 岡 小 学 校	13:30~15:30	養護教諭、担任2名	2事例について助言
16日	火	黒 門 小 学 校	13:30~14:30	校長、副校長、養護教諭、主任教諭	1事例について助言
		玉 姫 保 育 園	15:00~16:00	園長、担任1名	2事例について助言
8月9日	金	浅草橋保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	1事例について助言
20日	火	東上野保育園	15:00~16:00	園長、担任1名	2事例について助言
9月3日	火	玉 姫 保 育 園	15:00~16:00	園長、担任1名	1事例について助言
10日	火	千 束 小 学 校	14:00~15:00	養護教諭	5事例について助言

9月10日	火	東上野保育園	15:15～16:15	園長、担任2名	4事例について助言
13日	金	清島幼稚園	13:30～15:00	園長、担任2名	2事例について助言
17日	火	蔵前小学校	13:30～16:00	校長、担任5名、他1名	5事例について助言
10月8日	火	上野中学校	14:00～16:00	養護教諭、担任1名、他1名	3事例について助言
15日	火	東浅草小学校	13:30～15:30	副校長、養護教諭、担任2名、他1名	4事例について助言
11月5日	火	東浅草小学校	13:30～15:30	校長、副校長、担任1名、他1名	5事例について助言
8日	金	松葉小学校	14:00～16:00	養護教諭、担任1名	2事例について助言
12日	火	富士小学校	13:30～15:30	養護教諭、担任2名	3事例について助言
19日	火	平成小学校	13:30～15:30	副校長、養護教諭、担任3名、他4名	4事例について助言
12月3日	火	坂本保育園	14:30～16:00	担任2名	2事例について助言
10日	火	三筋保育園	15:15～16:00	園長、担任1名	1事例について助言
13日	金	駒形中学校	14:00～15:00	校長、副校長、担任2名	1事例について助言
17日	火	玉姫保育園	15:10～16:10	園長、担任2名	2事例について助言
1月7日	火	松が谷保育園	14:00～15:00	副園長、担任1名	1事例について助言
7日	火	千束保育園	15:30～16:30	副園長、担任1名	2事例について助言
10日	金	金竜小学校	13:30～15:00	養護教諭、担任2名	3事例について助言
14日	火	石浜小学校	14:00～16:00	養護教諭、担任1名、他2名	1事例について助言
21日	火	平成小学校	13:30～15:40	校長、副校長、養護教諭、担任4名、他4名	4事例について助言
2月4日	火	黒門小学校	13:30～15:50	校長、副校長、養護教諭、担任2名、他2名	2事例について助言
14日	金	田原小学校	14:10～16:00	校長、担任2名	2事例について助言
18日	火	忍岡小学校	13:30～15:05	副校長、養護教諭、担任1名、他1名	2事例について助言

＊「参加者」の表記について、「他」は特別支援教室専門員、スクールカウンセラーなどである。

＊「事例について助言」は、「授業・保育参観後に助言した事例」と「提示事例による助言」が含まれる。

＊ 医師の助言は「診断」ではなく、「所見及び助言」である。

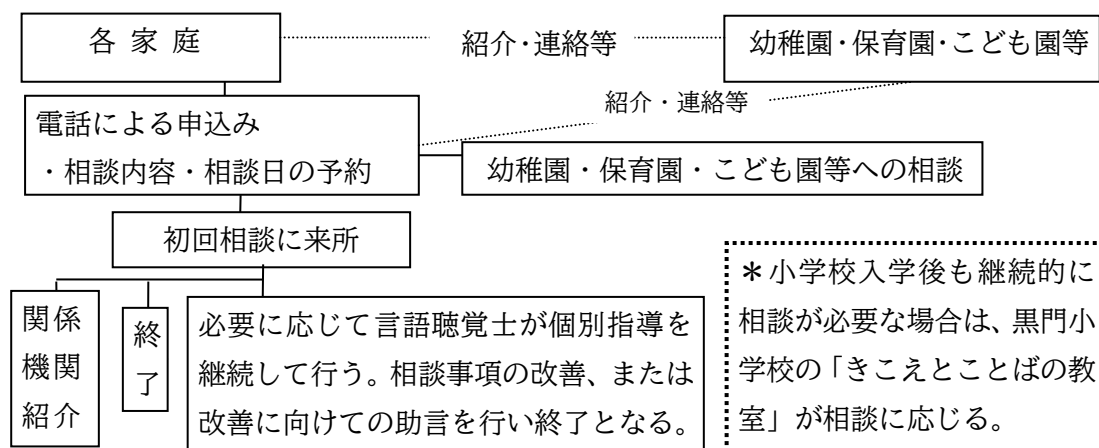
未就学児のきこえとことばの相談

「未就学児のきこえとことばの相談」では、幼児の言葉の発達に関する問題について、保護者の申込みにより、言語聴覚士が個別に相談に応じて支援している。平成 21 年 6 月に開設し、相談者の増加に伴い、平成 26 年度に相談日を増設した。その後も相談者の増加が著しく、平成 29 年 11 月から新たに相談日を増設して対応している。

幼児期は、家庭だけでなく園での集団生活を経験する中で言語環境も広がっていく。その中で、幼児語から徐々に発音が明瞭になるとともに語彙が増えていく時期でもある。園の教職員だけでなく、保護者の子供の言葉への関心が高まってきており、発音不明瞭や吃音などに関する相談が増えている。就学前に改善を期待する保護者も多く、支援の充実を今後さらに図っていきたい。

1. 「未就学児のきこえとことばの相談」事業内容について

- (1) 対 象 ○就学前の幼児・・・主として3歳児～5歳児（年少児・年中児・年長児）
- (2) 目 的 ○就学前の幼児の言葉における全般（発音不明瞭、吃音、言語発達遅滞など）について、言語聴覚士が相談に対応し、幼児の言葉の発達に関する問題について改善を支援する。
- (3) 内 容
- 言語聴覚士と教育相談員で対応する。
 - 面談日時（要予約） ※都合により、日・時間等の変更もある。
 - *第3週の木曜日、第4週の水曜日・・・・・・・・・・午前 9:30～11:30
 - *第2週の火・木曜日、第3週の水曜日、第4週の火曜日・・・午後 2:15～4:15
 - 指導の回数は、幼児一人一人の実態と指導の内容に応じて設定する（基本的に1回60分間）
- (4) 相談の申込み方法及び相談の流れ



2. 相談結果及びその状況について

<表1> 年齢別申込件数（前年度からの継続・新規申込）

単位：件

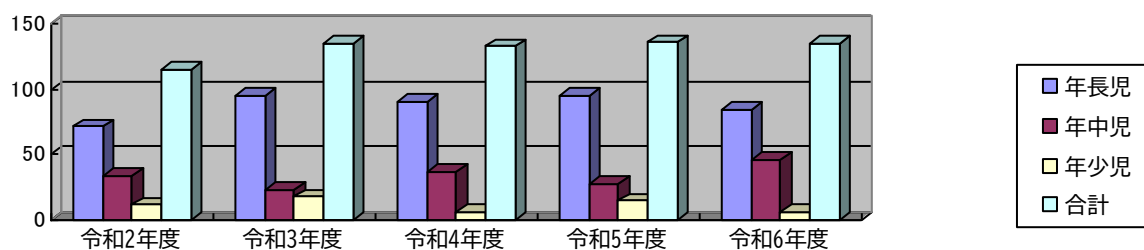
年 度	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
内 訳 年 齢	継 続	新 規	継 続	新 規	継 続	新 規	継 続	新 規	継 続	新 規
年 長 児	21	12	27	15	16	10	29	15	17	15
年 中 児	11	18	12	5	11	19	10	9	9	24
年 少 児	0	15	2	13	2	8	0	9	0	9
小 計	32	45	41	33	29	37	39	33	26	48
合 計	77		74		66		72		74	

<表2> 年齢別来所相談回数

単位：回

年 度 年 齢	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年 長 児	71	95	90	95	84
年 中 児	33	23	37	27	46
年 少 児	11	17	6	14	5
合 計	115	135	133	136	135

<図1> 年齢別来所相談回数



<表3> 主訴と指導内容

単位：件

指 導 内 容	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
構音障害	55	43	41	52	47
吃音	15	17	15	9	7
言語発達遅滞	1	3	2	2	2
構音障害+吃音	6	10	7	7	13
構音障害+言語発達遅滞	0	1	1	2	3
吃音+言語発達遅滞	0	0	0	0	1
構音障害+吃音+言語発達遅滞	0	0	0	0	1
合 計	77	74	66	72	74

＜表４＞ 園児の所属園 単位：件

年度 所属園	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
区立幼稚園	6	10	7
区立保育園	10	10	7
私立幼稚園	23	22	24
私立保育園	21	22	26
こども園	6	8	10
その他	0	0	0
合 計	66	72	74

＜表５＞ 申込方法及び紹介経路 単位：件

年度 項 目		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
保護者の気付きによる申込		32	30	30
紹介による申込		34	42	44
紹介経路	区立幼稚園	1	5	6
	区立保育園	1	3	2
	私立幼稚園	3	5	6
	私立保育園	6	10	9
	こども園	0	0	1
	保健相談センター	12	8	8
	松が谷福祉会館	6	6	7
	教育相談・電話相談	1	0	0
	病院・就学時健診等	4	5	5
合 計		66	72	74

＜表６＞ 終了者数と他機関とのかかわり 単位：件

項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度
終 了 児 総 数		27	46	37
内 訳	年長児の終了児数	26	44	34
	評価のみで終了・改善して終了	1	0	1
	他機関への紹介・移行	0	2	1
	その他（転居他）	0	0	1
次年度への継続者		39	26	37
合 計		66	72	74

【相談状況について】

令和6年度申込み者数は、令和5年度からの継続者が26件、令和6年度新規申込み者が48件、合計74件であった。新規申込み者数は、令和5年度に比べて15件多い。＜表1＞

年齢別では、年中児の申込み件数が最も多く、来所相談回数も前年度より19件増えている。＜表2＞

主訴と指導内容では、構音障害の相談が64%で最も多い。構音障害＋吃音が18%、吃音が9%、構音障害＋言語発達遅滞が4%、言語発達遅滞が3%、他の主訴が各1%であった。＜表3＞

幼児の所属園については、私立幼稚園・保育園の所属が増加傾向である。＜表4＞

申込み方法としては、保護者の気付きによる申込みが41%、紹介による申込みは59%である。特に、私立保育園・保健相談センター松が谷福祉会館等の紹介が多い。＜表5＞

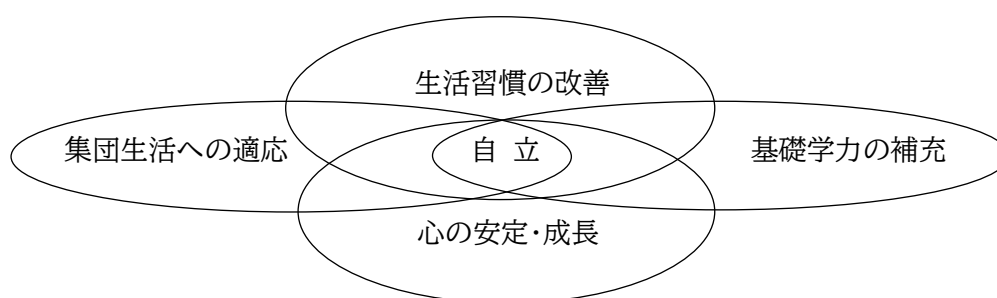
終了児総数は37件であり令和5年度に比べて9件少ない。また、終了児の中には、黒門小学校「きこえとことばの教室」に通級するケースもある。

次年度への継続者は37件であり、令和5年度より11件多い。＜表6＞

生活指導相談学級（あしたば学級）年間活動報告

1. 本年度の重点

自立した児童・生徒の育成を目指し、令和6年度は以下の4点を重点に活動を進めた。



2. 年間活動状況

4月	中学校訪問（管理職）
5月	創作活動
6月	中学校訪問（スクールカウンセラー） 担任連絡会 校外学習 創作活動 ミニ調理実習
7月	創作活動 地域散策 調理実習 保護者面談 1学期末交流集会 自由通級
8月	自由通級
9月	創作活動 ミニ調理実習
10月	創作活動 校外学習
11月	地域散策 担任連絡会 保護者面談
12月	創作活動 調理実習 2学期末交流集会
1月	創作活動 ミニ調理実習
2月	地域散策 担任連絡会 保護者面談
3月	校外学習 調理実習 創作活動 学年末交流集会

3. 活動内容

(1) 始業・終業

	始業	終業	自由通級
1 学期	4 月 10 日 (水)	7 月 18 日 (木)	・ 7 月 22 日～26 日 (午前中) ・ 8 月 26 日～30 日 (午前中)
2 学期	9 月 3 日 (火)	12 月 24 日 (火)	
3 学期	1 月 9 日 (木)	3 月 21 日 (金)	

・ 開設する日は、月曜日から金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

(2) 生活時程

活 動 計 画	学習や集団活動について、1 日の計画をたてる。
活 動	それぞれの計画に沿って、「学習室」や「学びの部屋」で自主学習する。
集 団 活 動	年間計画に基づいて実施する。（調理実習・地域散策・理科実習・交流集会・中高生新聞を読んで・運動等）
あしたばタイム	興味・関心のある活動に取り組む。

(3) 生活時程(活動例)

	9:15～9:30	本日の活動計画 記入	
1	9:30～10:15	国語	読書
	10:15～10:25	休み時間（ラジオ体操 第1・第2）	
2	10:25～11:10	算数 / 数学	運動
	11:10～11:15	休み時間	
3	11:15～12:00	英語	イラスト
	12:00～13:00	昼食 / 昼休み	
4	13:00～13:45	理科・社会（選択）	パソコン
	13:45～13:50	休み時間	
5	13:50～15:00	あしたばタイム（運動／創作活動／話し合い活動など）	
	15:00～15:15	本日の振り返り 記入	

・ 必要に応じてカウンセリングを実施

4. 主な集団活動

(1) 調理実習・ミニ調理実習

調理実習	カレーライス 7月12日	食材を切る・炒める・煮るという基本的な調理方法を実習した。各々自分の役割を確認しながら調理し、友達と協力して調理することの楽しさを学んだ。
	お好み焼き 12月24日	大量のキャベツをみじん切りにしたが、けがをすることなく細かく切ることができた。お好み焼きをひっくり返す作業は苦戦したが、何度か練習をしてコツを習得した。
	ナポリタンスパゲッティ 3月11日	グループで好みの味を話し合い、自分たちの好みの味になるよう調味料や炒める時間を工夫した。お互いの意見を尊重しながら調理することができた。
ミニ調理実習	たこ焼き 6月21日	仲間と工夫を凝らしながら試行錯誤を重ね、作業したことで人間関係が深まった。最終的に全員が丸いたこ焼きを焼くことができた。
	フルーツポンチ 9月26日	りんご、キウイフルーツ等の果物の皮を包丁で剥くことができた。盛り付けも綺麗に見えるよう工夫し、最後に炭酸とみつ豆を入れ仕上げた。
	フレンチトースト 1月30日	身近な食材を使って手軽な方法でフレンチトースを作ったことにより、もう一度自宅でも作ってみたいという意欲が高まった。

(2) 地域散策・校外学習

国立科学博物館 上野公園 6月14日	国立科学博物館では、地球の多様な生き物がお互いに深く関わりあって生きている姿、地球環境の変動の中で生命が誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきた道のりを学ぶことができた。また、上野公園を散策し、上野台の地形や歴史的な建物を見学し理解を深めた。
ほおづき市 7月10日	浅草寺境内で毎年行われる夏の風物詩「ほおづき市」を見学し、下町台東の賑わいとそのよさや楽しさを実感した。
飛鳥山公園 10月17日	北区の飛鳥山公園にある「紙の博物館」と「渋沢史料館」の見学を通して紙の歴史や文化を学んだり、新紙幣の顔になった渋沢栄一の生涯をたどったりして理解を深めた。
酉の市 11月29日	江戸時代から続く年末の行事である「酉の市」を見学し、年の瀬に向かう町の賑わいとそのよさを体感した。
谷中七福神巡り 2月7日	新しい年を迎え「谷中七福神」の中で台東区にある4つの寺をめぐり、その歴史の理解を深めた。
本所防災館 3月7日	暴風雨・都市型水害・地震・煙などの体験を通して、災害時の的確な対応を学び防災に対する行動力を高めることができた。

(3) 理科実習

アサガオの栽培 5月～11月 ミクロの世界 9月	5月に種蒔きをし、水遣りなどの世話をしながら、秋の種取りまで栽培活動を継続した。また、「ミクロの世界」と称して、9月にはアサガオの花粉の様子を顕微鏡で観察した。継続した活動や自分たちの育てている植物を教材として使用することで、植物への親しみをより深めることができた。 なお、枯れたアサガオの蔓は、12月の創作活動（リース作り）に活用した。
---------------------------------------	--

(4) 交流集会

1学期末交流集会 7月18日	1学期の振り返りと夏休みに向けてのめあてを発表した。
2学期末交流集会 12月24日	2学期の振り返りと冬休みに向けてのめあてを発表した後、ティーボール大会を行い、親睦を深めた。
学年末交流集会 3月21日	令和6年度の振り返りと新年度の目標について発表した後、ティーボール大会を行い、親睦を深めた。

(5) 創作活動

折り紙 4月15日～5月24日	折り紙を使って兜を作ったり、箸袋を使って鶴型の箸置きを作ったりして、完成した作品は棚やテーブルに飾った。
七夕飾り制作 6月24日～7月5日	短冊に、将来の夢や希望を書いた。また千代紙や厚紙などで笹飾りを作った。それぞれが書いた短冊を笹に飾りつけた。
生き生き国語 7月1日～3月21日	漢字の語源を知り、「名作を訪ねて」を聴いて読書のきっかけにした。
クリスマスリース制作 12月16日～23日	クリスマスリース作りに挑戦した。咲き終わったあさがおの茎を丸くして、それにリボンテープや折り紙で折った装飾品を組み合わせで自分だけのクリスマスリースを制作した。
書初め 1月14日～20日	今年度の小中学校の書き初め手本を課題とし、下敷きを工夫して練習し、清書をさせて、展示した。
百人一首大会 1月27日	「今日も楽しく百人一首」の課題プリントに取り組み、大会に向けて準備した。当日は和室さくらで大会を行った。
アルバム制作 3月12日～21日	色紙とプリントアウトした写真を渡し、自由にレイアウトさせ、自分の好きな文字やイラストを入れて、アルバムを制作した。

5. バーチャル・ラーニング・プラットフォームの活用

1 目的

あしたば学級を利用している児童・生徒及び家庭に引きこもりがちである児童・生徒に対して、オンライン上の仮想空間を活用して学びの場を提供することにより、個別最適な学びの充実や社会的自立の一助とする。

2 活動期間

令和6年5月 27 日(月)から令和7年3月 31 日(月)まで

3 活動内容

(1)様々な方法でコミュニケーションを楽しむ

アバター(仮想空間上のキャラクター)のチャット機能を活用し、用途に合わせてコミュニケーションをとることができる。

(2)楽しい学びのコンテンツ

自学自習用のWEB教材やプログラミング教材などのコンテンツがあり、自らの興味関心や学習状況に応じた活用が可能。

4 利用方法

ID・パスワード、学習系端末をあしたば学級利用時に持参し、利用時間等を職員と確認したうえで利用する。



自学自習用Web教材
デキタス

小1～中3までの5教科、教科書対応学習システム。
「教科書のこの部分を勉強したい」という児童生徒主体の学習を起点とするため、好きなこと、興味があることから、自分のペースで学習できます。

デキタスは、学校の学習内容の理解を目的に開発され、教科書内容に沿った授業動画や演習問題が5教科すべてにラインナップされているほか、既習・未習分野のさかのぼり・さきどり学習機能等を搭載し、学び本来の楽しさを体感することを通じて、自ら学ぶ意欲を持った児童・生徒を育成します。

6. 連携

(1) 学校との連携

あしたばだより	ね ら い	あしたば学級の現状等を知らせ、理解・協力を得る。
	方 法	毎月、月初めに発行・送付する。
	内 容	活動方針や活動内容、行事予定等を記載する。
学 校 訪 問 ① (生活指導相談員)	ね ら い	あしたば学級と学校との連携・協力の在り方について共通理解を図る。
	方 法	・年度当初、各中学校及び通級児童の在籍する小学校の管理職を訪問する。 ・児童・生徒に問題行動が生じた場合等、必要に応じて管理職や担任を訪問する。 (※6月の小学校副校長会にて、あしたば学級のしおりを配布し入級手続き等について説明する)
	内 容	通級児童・生徒を含め不登校傾向にある子供全体の出席状況の聞き取り、今後の連携・協力について話し合う。
学 校 訪 問 ② (教育相談員)	ね ら い	不登校傾向にある児童・生徒の情報を共有し、今後の連携・協力が円滑に進むよう共通理解を図る。
	方 法	各中学校及び通級児童の在籍する小学校のスクールカウンセラーを訪問する。(6月)
	内 容	児童・生徒の出席状況やカウンセリングによって得られた内容の聞き取り、今後の連携・協力について話し合う。
担 任 連 絡 会 (生活指導相談員)	ね ら い	学校復帰、進級・進学に向け、担任と連携・協力しながら、通級児童・生徒一人一人の課題解決に取り組む。
	方 法	各学期末に、在籍校またはあしたば学級にて、児童・生徒の担任と面談する。 1学期：6月10日(月)～21日(金) 2学期：11月5日(火)～15日(金) 3学期：2月3日(月)～14日(金)
	内 容	通級児童・生徒の様子や今後の指導・支援の在り方等について、情報交換しながら話し合う。
指 導 報 告	ね ら い	児童・生徒の通級状況や活動の様子、カウンセリングによって得られた内容、及び今後の課題等を知らせ、連携・協力を図る。
	方 法	各学校長宛に報告書を毎月送付する。
	内 容	児童・生徒の出席日数や活動内容、生活指導相談員と教育相談員からの所見を記載する。

(2) 保護者との連携

あしたばだより	ね ら い	あしたば学級の現状等を知らせ、理解・協力を得る。
	方 法	毎月、月初めに発行し、児童・生徒を通して配付する。
	内 容	活動方針や活動内容、行事予定等を記載する。
保 護 者 面 談	ね ら い	あしたば学級での活動や家庭での様子を振り返り、成長を確かめ合うとともに、学校復帰に向けての共通理解を図る。
	方 法	・各学期末にあしたば学級にて、児童・生徒の保護者と生活指導相談員や教育相談員とで面談する。 1学期：7月1日(月)～12日(金) 2学期：11月18日(月)～12月6日(金) 3学期：2月26日(水)～3月14日(金) ・面談期間以外でも、必要に応じて保護者と面談する。
	内 容	・児童・生徒のあしたば学級での活動と家庭での様子についての情報共有をする。 ・学校復帰や進路などに向けての指導・支援の在り方について話し合う。
指 導 報 告	ね ら い	児童・生徒の通級状況や活動の様子、今後の課題等を知らせ、学校復帰に向けて連携・協力を図る。
	方 法	保護者宛に児童・生徒を通して報告書を毎月配付する。
	内 容	児童・生徒の出席日数や活動内容、生活指導相談員からの所見を記載する。

(3) 教育相談室との連携

ね ら い	情報共有、協力体制の確立を図る。
方 法	必要に応じて情報交換の場を設定する。
内 容	・あしたば学級への入級、教育相談室への紹介に関する事前の情報交換・共有をする。 ・あしたば学級と教育相談室の両方に通う児童・生徒やその保護者についての情報交換・共有をする。

7. 在籍人数

	小学生	中 1	中 2	中 3	計
男	4	3	8	1	1 6
女	9	5	6	7	2 7

(令和7年3月31日現在)

8. 進路先

	公立高校	私立高校	未定・その他
人 数	1	7	0

(令和7年3月31日現在)

ふれあいパートナー派遣事業

本事業は、学校に登校できず家庭にひきこもりがちな児童・生徒を対象としたものである。教員を志望していたり、心理学を学んでいたりする大学生・大学院生等を週1回家庭に派遣し、心の安定を図り学校復帰に向けて支援している。

事業内容

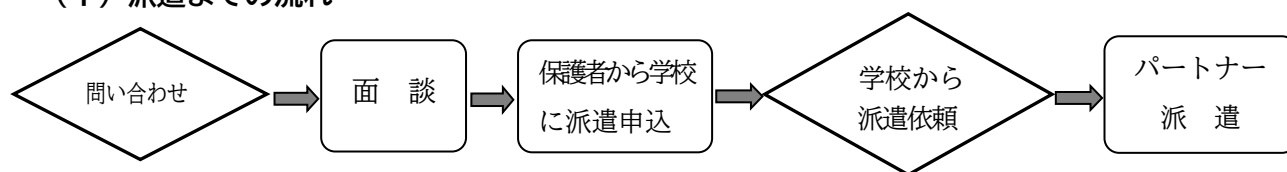
1. 目的

- (1) 対象の児童・生徒と、面談や学習等を通して人間関係を築き、心の安定を図る。
- (2) 児童・生徒との信頼関係を基盤に、あしたば学級に対して関心を深め、入級への期待をもてるようにする。
- (3) 児童・生徒との話し合い、体験的な活動等を通して、社会的自立および学校生活への復帰を支援する。

2. 対象

台東区立小・中学校に在籍、または区内在住の私立小・中学校等に在籍する不登校等でひきこもりがちな状況にある児童・生徒で、保護者等の依頼により校長から申込みがあった者とする。

(1) 派遣までの流れ



(2) 場所・期間

- ① 保護者在宅の自宅を基本とする。
- ② 気分転換等を目的とした外出の場所は、訪問先の近隣とする。
- ③ 週1回2時間程度とする。(平日9:00~16:00の間)
- ④ 原則6ヶ月までの派遣とする。派遣期間内であっても年度末3月で一度終了となり、残りの期間の派遣を希望する場合は、改めて申請が必要となる。

(3) 活動内容

- ① 話し合い活動(生活習慣、友人関係、学校生活、勉強、自分の夢や希望、進路、日々の過ごし方等)
 - ② 興味・関心を生かした活動(折り紙や工作、絵やイラスト、手芸、オセロ、将棋等)
 - ③ 体を動かす活動(ストレッチ、体操、散歩、近隣の公園で可能な運動等)
 - ④ 学習活動(簡単な読み書きや計算、読書、作文、学習意欲を喚起するもの等)
- ※ 上記の内容を活動時間の中で本人と相談のうえ、継続しながら計画的に行う。
- ※ 月ごとに活動報告を学校に送付する。

[派遣状況について]

令和6年度は、中学生1名、小学生3名の利用があった。いずれも6か月間の派遣で、3名のふれあいパートナーが対応した。対象生徒・児童の心の安定を図るなど、子供に寄り添った支援活動が実施できた。

今後も引き続き学校や保護者への周知を図り、より良い人材を確保するとともに、パートナー派遣を希望する児童・生徒の心の安定につなげ、あしたば学級の利用や学校への復帰に向けた支援をしていきたい。

台東区立教育支援館・担当者一覧（令和6年度）

館長	増嶋 広曜
統括指導主事	前 博 毅
教育相談員	（教育職） 中山 和佳子 ・ 古谷 尚律
	（心理職） 吉成 純子 ・ 田宮 圭 ・ 花田 祥子
	梅澤 義行 ・ 今津 杏菜 ・ 中村 実沙紀
あしたば学級	（教育職） 古矢 豊 ・ 岩田 孝晴 ・ 丸山 雅弘
	関 登美雄 ・ 久保田 由季
	（心理職） 田 向 優